

作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量 （愛媛県）

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた作付面積（子実用）は1万2,800ha（前年産に比べ300ha減少）となった。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は1万2,800ha（前年産に比べ200ha減少）となった。

2 作柄概況

6月下旬から7月上旬にかけて、日照時間が平年を下回って寡照に推移したことから、分げつが抑制され、穂数は「やや少ない」となった。幼穂形成期にあたる7月下旬から8月上旬にかけて、気温及び日照時間が平年を確保したことから、1穂当たりもみ数は「平年並み」となり、全もみ数が「少ない」となった。全もみ数が少ないとなったことによる補償作用に加え、9月下旬から10月下旬までの気象が平年に比べて多照少雨傾向で推移したことにより、登熟は「良」となった。

作柄としては、以上のことから、10a当たり収量は505kg（前年産に比べ19kg減少）、作柄表示地帯別では、東予で507kg（前年産に比べ13kg減少）、中予で522kg（同25kg減少）、南予で484kg（同21kg減少）となった。

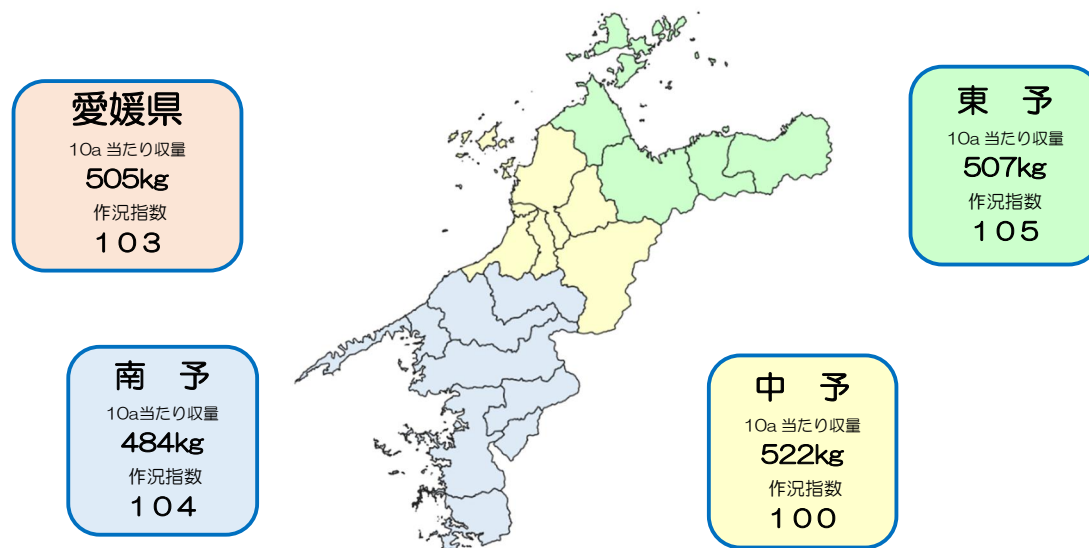
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103の「やや良」、作柄表示地帯別では、東予は105の「やや良」、中予は100の「平年並み」、南予は104の「やや良」となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は、6万4,600t（前年産に比べ4,000t減少）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、6万4,600t（前年産に比べ3,500t減少）となった。

図 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数

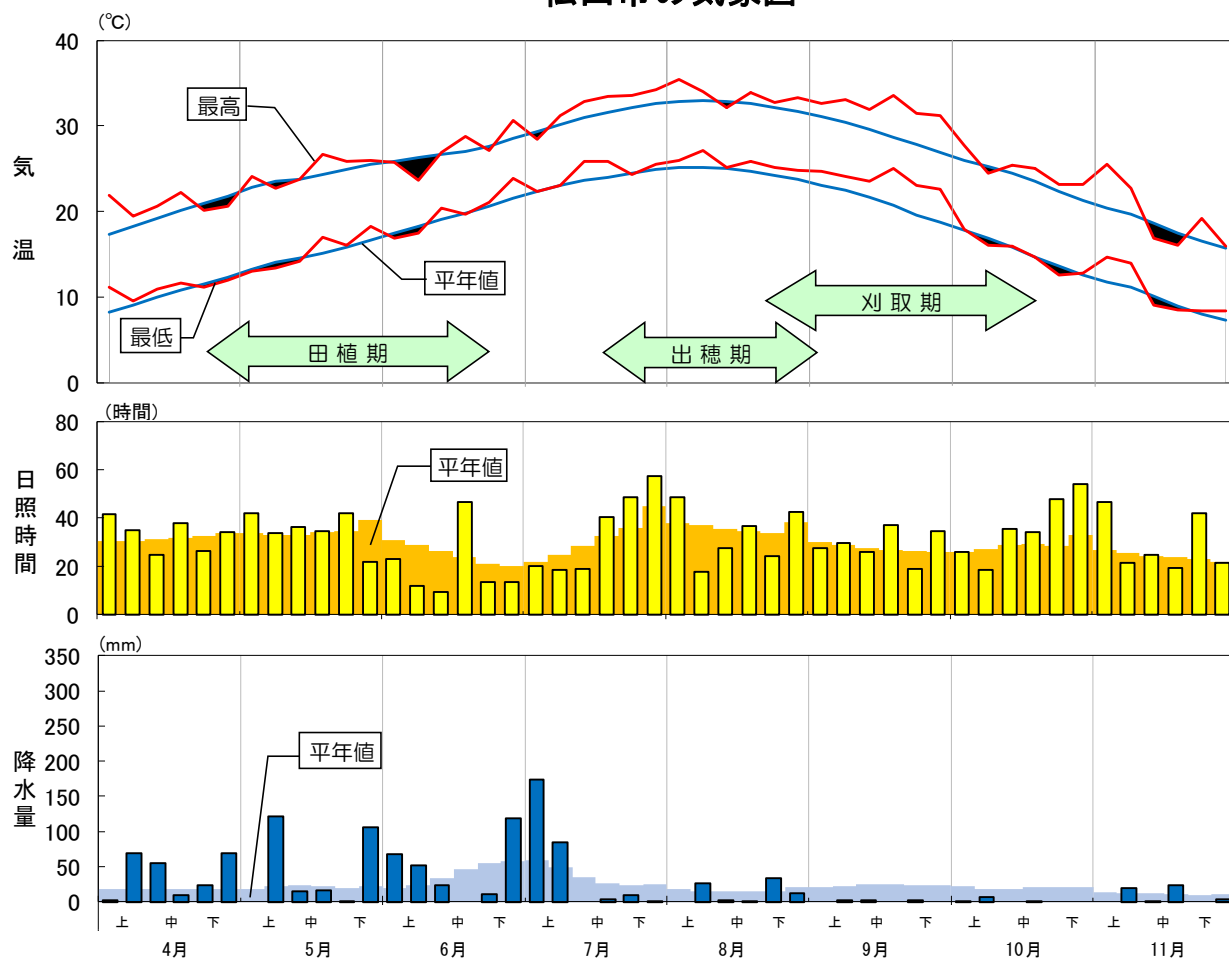


◎累年統計表

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
愛媛県 平成25年産	15,300	493	75,400	15,200	74,900	99
26	15,000	490	73,500	14,900	73,000	98
27	14,600	488	71,200	14,600	71,200	98
28	14,200	508	72,100	14,200	72,100	102
29	13,900	508	70,600	13,900	70,600	102
30	13,900	498	69,200	13,900	69,200	100
令和元	13,600	470	63,900	13,500	63,500	94
2	13,400	474	63,500	13,300	63,000	91
3	13,200	510	67,300	13,200	67,300	104
4	13,100	524	68,600	13,000	68,100	104
5	12,800	505	64,600	12,800	64,600	103

◎半旬別気象図

松山市の気象図



資料：気象庁『アメダスデータ』

本資料は、「作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）」の補足資料です。

お問合せ先

中国四国農政局 愛媛県拠点 統計チーム

電 話：089-932-1178